



WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ

2025~2026 年度 高山中央 RC 会長テーマ

親睦・学び・成長・奉仕 ~地区と地域の未来を考えて~

よいことの
ために
手を取りあおう



◆会長 都竹 太志 ◆幹事 井ノ下 雄志 ◆会報委員長 今井 哲也 ◆会報担当 中屋 出

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階
TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30~

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席数	Make-up	出席率
本日 1415回	56名	56名	44名	——	78.57%
前々回 1413回	56名	56名	39名	5名	78.57%

●点鐘

●ロータリーソング

それでこそロータリー

●高山中央ロータリークラブ職業倫理基準

●ビジター・ゲストの紹介

●会長の時間

会長 都竹 太志

皆さま、年末のご多忙の中、例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

いよいよ 2025 年も終わりが近づいてまいりました。「師走（しわす）」という言葉通り、年末は誰もが忙しく、落ち着かない日々を過ごされていると思います。しかしそんな中でも、ウォーキングの途中、ふと夜空を見上げて、きれいな星空に癒される瞬間があり、季節の音や光に心を委ねたくなるような瞬間が訪れます。年末はイルミネーションの灯りがきらめき、音楽ホールやテレビ、ラジオからはある楽曲の旋律が耳に届きます。「歓喜の歌」で知られるベートーヴェンの「交響曲第九番」、いわゆる「第九」です。

「第九」は 1824 年に完成された、ベートーヴェンの集大成とも言える交響曲です。この作品の革新的なところは、何と言ってもそれまで器楽のみで構成されていた交響曲に、「合唱」を取り入れたことがあります。特に第 4 楽章では、オーケストラに合唱とソリストが加わり、「歓喜の歌 (Ode an die Freude/歓喜に寄す)」が壮大に歌われます。この詩を生んだのは、ドイツの詩人フリードリヒ・シラー。若き日の彼が仲間との友情を歌い上げたもので、「歓喜とは人と人を結びつける神聖な力である」と謳い、やがて「自由・平等・博愛」という理念と重なって、ベートーヴェンの中で人類の理想を託す詩として昇華されました。彼はこの詩に、



音楽でしか表現できないスケールと精神性を与え、「第九交響曲」として結実させました。

この楽曲は単なる音楽作品にとどまらず、人類の尊厳・平和・連帯を高らかに讃える“音の宣言”として、約 200 年にわたって世界中で演奏され続けています。現在では欧州連合 (EU) の公式アンセム（賛歌）としても採用されており、国境や文化を超えて共通の価値観を共有する象徴となっています。さて、このように国際的な意味を持つ「第九」ですが、日本で、なぜ年末になると繰り返し演奏され、まるで風物詩のように定着したのか。その背景には、日本ならではの歴史と社会の流れがあります。まず、歴史的には、第一次世界大戦中のドイツ人捕虜が関わっています。1914 年、日本は連合国としてドイツに宣戦布告し、多くのドイツ兵を国内の収容所に収容しました。その一つが、徳島県鳴門市にあった「板東俘虜収容所（ばんどうふりよしゅうようじょ）」です。

この収容所では、当時としては画期的ともいえる人道的な取り組みが行われ、ドイツ人捕虜と地元日本人の間に、音楽やスポーツなどを通じた文化交流が盛んに行われていました。そして 1918 年 6 月、日本で初めて「第九」の全楽章が、ドイツ人捕虜たちによって演奏されました。

これが、「第九」が日本に紹介され、根を下ろす最初の一歩となりました。

その後、戦後の昭和期、特に高度経済成長期以降、「第九」は次第に年末の恒例イベントとして定着していきます。その理由は大きく二つあります。まず一つは、演奏に大人数の合唱団が必要となるため、年末に一斉に人員を集めイベントとして最適だったこと。プロの音楽家にとっても「第九」は貴重な“仕事納め”の機会となり、演奏機会が増加しました。

もう一つの理由は、「苦しみを越えて歓喜に至る」という「第九」のメッセージが、日本人の年末の心

情と深く響き合ったことです。年の瀬には、誰しもがその一年の苦労を思い返し、やがて新年への希望に目を向けます。ベートーヴェン自身が掲げた

「Durch Leiden Freude (苦しみの後に歓喜あり)」という言葉は、まさにその心情を代弁するものだったのです。

このような背景の中、現在では大阪の「サントリー 1万人の第九」をはじめ、全国各地で市民参加型の演奏会が開かれるようになりました。子どもから高齢者まで、幅広い世代が声を合わせて「歓喜の歌」を歌い上げる光景は、まさに人と人とがつながり合う象徴的な文化となっています。

世界中を見渡しても、「第九」がここまで年末の伝統行事として広く定着している国は、日本以外にありません。これは今では日本独自の文化であり、誇るべき精神的遺産のひとつといえるでしょう。

もう一つ、年末の風物詩として心に残るのが、街を彩る冬のイルミネーションです。空気が乾き、夜空が澄んだこの季節は、光のきらめきが一層美しく感じられます。

今年発表の日本 3 大イルミネーションはハウステンボスの「光の王国」、あしかがフラワーパーク「光の花の庭」、札幌の「さっぽろホワイトイルミネーション」です。高山でも中橋や飛騨の里のライトアップなどがあり、全国各地で趣向を凝らした演出がなされ、多くの人々の心を明るく照らしています。この光には、ただの装飾ではなく、「一年を無事に終えられた感謝」や「新しい年への静かな希望」が込められているように感じます。

年末というのは、忙しさの合間に、ふと自分自身や身の回りのあり方を見つめ直す貴重なひとときです。「第九」の壮大な響きに耳を澄ませるとき、そこには人類の尊厳や平和への祈りがこめられており、街の光に目を向ければ、来たる年への希望を感じられます。来たる 2026 年が皆さんにとって、歓喜と希望に満ちた一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて来週は忘年例会です。会長の時間として、長い時間話すのは本日が年内最後です。つまりながらでも、原稿を見ずに、この会長の時間を話したいと思いながらも全く出来ませんでした。内容的にも、これで良いのか自問自答ばかりしておりますが、お付き合い頂きありがとうございました。また、この半年間は IM をはじめ、例年と比べ多くの事業がございましたが、皆さんとともにワンチームとなり実りあるものとすことができました。改めて心より感謝申し上げます。

本日もご清聴、誠にありがとうございました。

●幹事報告

◎国際ロータリー第 2630 地区

ガバナー事務所より

・2026 年ポリオ根絶チャリティーコンサートご協力の御願い
日時：2 月 13 日（水）

18：00～

会場：名古屋電気文化会館

幹事 井ノ下 雄志



◎ロータリー米山記念奨学会より

・ハイライトよねやま 309

○高山ロータリークラブより

・インタークト飛騨・中濃・東農グループ協議会
お礼

○高山西ロータリークラブより

・例会変更のお知らせ

1 月 2 日（金）休会 定款により

1 月 9 日（金）⇒11 日（日）18：00～

新年家族例会 高山グリーンホテル

1 月 16 日（金）休会 定款により

●3 分間スピーチ

三枝 祥一



●公共イメージ/IT 委員会

委員長 水口 邦博

皆さんこんにちは。

今日は、公共イメージ/IT 委員会の担当例会という事で、公共イメージについて皆さんと学んでいきたいと思います。

また、IT 委員会についてですが、以前は「IT 委員会」「IT 推進委員会」とあったようですが、最近では「公共イメージ委員会」におけるデジタル化や IT リテラシー向上を目的とした、

公共イメージ委員会の補助的な扱いになっているようです。

ではまず、公共イメージ委員会についてご説明いたします。



公共イメージ委員会は、ロータリーのストーリーを広く伝える役割を担います。

その目的は、ロータリーがどのような団体であるか、地域や世界の問題解決のためにどのように協力しているか、また、ロータリーの活動がどのように地域社会に変化をもたらしているかについて、認識を高めることです。

とあります。

では、ロータリーのイメージとはいってどういうものなのかな？AI についてみました。

ロータリーのイメージは？

ロータリーのイメージは「奉仕とつながりを象徴するブランド」であり、地域社会に貢献する行動人（こうどうじん）の姿を表しています。一方で、一般社会では「社長さんたちの昼食会」「おじさんの集まり」といった固定観念もあり、公共イメージの改善が課題とされています。

世間の認識と課題

- ・一般社会では「経営者の集まり」「暇なおじさんの団体」と見られることもあり、若者や女性の参加をどう増やすかが課題。

- ・認知度調査では「ロータリーをよく知らない人が多数を占め、広報や SNS 発信の強化が必要とされている。

世間ではこのようなイメージとなっているようです。

続いて高山中央ロータリークラブだと、どうでしょうか。

高山中央ロータリークラブのイメージは？

高山中央ロータリークラブのイメージは「結束力と地域貢献を重視する奉仕団体」であり、創立 25 周年を迎えた今も積極的に活動を続けるクラブです。

全体的な印象

高山中央ロータリークラブは「地域社会に根差し、結束力を武器に奉仕活動を展開するクラブ」というイメージが強いです。伝統を守りつつも、公共イメージの刷新や若い世代への発信にも積極的で、今後さらに存在感を高めていく団体といえます。少し情報が古い部分もありますが、結束力といった部分ではイメージが伝わっているのではないかでしょうか。これらの外からのイメージと、私たちの考えるイメージの乖離を少しでも埋めて行こう。そして、ポジティブなイメージがより多くなれば、クラブへの理解が深まり、魅力あるクラブには会員が集まる。昨今ささやかれる「会員増強」へも繋がるのではないかでしょうか？

という事で、ここからラーニングで学習してみましょう。こちらは My ロータリーから入れます。今回は、公共イメージのコースから、公共イメージの「ロータリーの公共イメージを築く」を選択します。

時間の都合もありますので、今日はこの復習部分をやってみましょう。

それでは問い合わせについて、一緒に考えてみましょう。公共イメージは、会員がロータリーについてどう思っているかのみに基づいて形づくられる。

答えは 誤

次です。

好ましい公共イメージにつながるものをお選びください。

答えは 地元地域の人口の多様性を会員基盤にも反映させる。と、奉仕プロジェクトで地元団体と協力する、です

次です。

好ましい公共イメージは…（該当するものをすべて選択）

答えは、これは全てですね

次です。

地元市民が「ロータリー」という名を知つていれば、それだけで参加への関心が生まれるはずだ。

答えは 誤

では最終問題です

ロータリーの会員は、好ましい公共イメージを促進できる立場にある。

答えは 正

今日は時間の都合上ここまでとなりますが、みなさんも一度お試しになられてはいかがでしょうか？

最後に、ロータリーのイメージを、自分目線から外部目線に 視点を変えて伝えましょう
以上で終わります。

ご清聴ありがとうございました。

<ニコニコ BOX>

朝に雪があると雪かきで大変です。運動かと思ってやるしかないです。皆さん元気にこれからも例会出席しましょう。

平林 英一

先週、出張で東京に行ってきました。西銀座のチャンスセンター10 番窓口で年末ジャンボ宝くじを買いました。10 億円当たる事を願ってニコニコへ。

住 裕治

「さんしょうの会」パンの販売、例会後も続けさせて頂きますが今回カタログ販売も行うようになりました。ご理解宜しくお願ひ致します。

熊崎 元康

令和 8 年 3 月 15 日第 23 回春宮祭を開催します。一部の方には協賛金依頼の封筒をお配りしました。郵便で届く方も見えますが、何卒今回もご支援の程よろしくお願ひします。

都竹 太志